

ほたるの里だより



八千代市ほたるの里づくり実行委員会
第43号 2014年 1月

新春 蛭雑感

八千代市 環境保全課長 頭司 孝弘

新年明けましておめでとうございます。平成26年の年頭に当たりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。

いにしへの歌集であります萬葉集に「蛭」を詠み込んだ防人の歌があります。

『この月は 君来まさむと 大舟の 思ひ頼みて い
つかと 我が待ち居れば もみち葉の 過ぎて去に
きと 玉梓の 使ひの言へば 蛭なす ほのかに聞き
て 大地を 炎と踏み 立ちて居て 行くへも知ら
ず・・・(巻13の3344首)』《作者不詳》

現代語に訳しますと、

『今月こそは 君が来られるだろうと(大舟の)あてに思って いつになったらと わたしが待っていると(もみち葉の)はかなく散ったと(玉梓の)使いが言うので(蛭なす)そうとほのかに聞いて 大地を 炎のようにじだんだを踏み 立ったりすわったりして 途方にくれ・・・(日本古典文学全集「萬葉集三」小学館刊)』となりますでしょうか。

地方での防人の務めを終えて帰ってくるはずであった夫を待っていた妻の歌です。萬葉集には、数少ない(1首だけ?)「蛭」が盛り込まれた歌で、「蛭なす」は「ほのかに」の枕詞で、妻の挽歌として、嘆き悲しむ様子がひしひしと伝わってまいります。昔も、「蛭」が照らすその光は、「ほのか」という象徴的なかすかな光として上代人も感じていたのでしょう。希望溢れる新春には、あまり相応しくない悲しい歌をご紹介します。

そこで、話をガラッと変えまして、私と、八千代市ほたるの里づくり実行委員会会長の加藤賢三氏との出会いについて、これから少し述べたいと思います。その出会いは、20年前に遡ります。当時は、わが子もまだ小さく、夏が近づく頃になりますと、八千代市北部の谷津田や水辺のある里山に家族を連れて、よく蛭を見に出かけました。そんな折「広報やちよ」にホタルの集いの記事が目にとまりました。その記事には、「市内のホタルマップを作りませんか」という表題に続き「人工でない自然のままのホタルのすむ環境を守ることから私たちの住む環境を考えたいと思います。」とありました。そこで記事を頼りに会場である八千代

台東南公民館に出かけ、その時初めて加藤氏とお会いいたしました。平成3年のことです。その集いは、加藤氏の主催によりまして、八千代市のホタルの生息状況を話し合い、その後「八千代ホタルフォーラム」の設立を告げられた記憶が脳裏に蘇ります。

その後、市においては、ほたるの里づくりを始めるに当たり、グラウンドワーク手法に関する講習会などを開催いたしました。この手法は、「右手にスコップ、左手に缶ビール」という心をくすぐるユニークなキャッチフレーズのもと、市民・企業・行政によるパートナーシップによる整備手法で、当時静岡県庁職員の渡辺豊博氏による「グラウンドワーク三島」の具体的な取り組みをお聞きすることができました。会場の熱気や雰囲気を含め、懐かしく思い出されます。そして、連携・協働団体との話し合いを経て、平成10年に

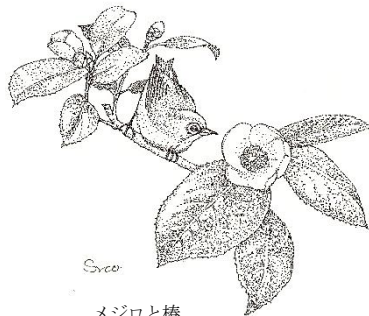
「八千代市ほたるの里づくり実行委員会」が結成され、里づくりとその後の環境整備に汗を流す日々が続き、今日に至っておりますことは、皆様、ご承知のことと存じます。

「蛭」の「ほのか」な光であった小さな記事から、多くの市民の方々の共感を呼び、水面の波紋が広がるように少しずつ、しかし着実に大きな「輪」となり、

「ほたるの里づくり活動」へと繋がっていったものと思います。今まで培ってきた良き伝統を引き継ぎ、これからも一つひとつ積み上げていくことで、更なる大きな樹として「ほたるの里づくり」が成長していくことを望んでおります。

市といたしましては、「ホタル」というキーワードを通して、自然に親しむ機会の拡充を始め、谷津・里山保全活動の推進、生物多様性の保全、環境学習・環境教育の推進、環境学習ボランティア講師の確保、環境ネットワークづくりの推進など幅広い取り組みを行ってまいります。また、気候変動、地球温暖化対策、ヒートアイランド現象など大きな地球規模の課題に対しても、太陽エネルギーの導入・促進を始め、バイオマスエネルギーの利活用、省エネルギー事業の推進、エコアクション21の推進など、次世代へ持続可能なエネルギー施策にも積極的に取り組んでまいります。

つきましては、今後とも本市環境行政施策の推進に、皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



メジロと椿

サポートセンター祭りをもちあげ「ほたるの里」に関心を持ってもらえる事を希望して、ホタルメイトの伊藤さんに協力していただきサポートセンター祭りに参加しました。

ほたるの里の場所や、活動の様子、ホタルの写真などを展示し、写真の前で、子どもさんにホタルの絵を描いてもらいました。また、ブースの前では、近隣の生きもの釣り（マグネット使用）場を設けました。釣り場は盛況で釣れた魚や貝、虫などの名前を確認して、「最近見ないね」とか、「どこで見られるの？」など興味津々。子どもも大人も楽しそうです。

「こんにちは“わ”！ふれあいまつり」スタンプラリーでは、①「ほたるの里」に行ったことがありますか？ ②本物のホタルを見たことがありますか？を聞きました。集計結果は、① はい＝26% いいえ＝74% ② はい＝67% いいえ＝33% でした。なかでもほたるの里は行ったことがない半数の人が「知っている」と答えました。「前を通るが入ったことがない」と言う答えが多かったので、ザリガニ釣り

や生き物を紹介しました。ホタルが住める環境づくりを目指している事をお話しましたら、子どもにとって良い環境を残してあげたいと希望するたくさんのお親子に出会いました。「ほたるの里だより」を差し上げると「駅や公共施設で見かける」と言ってくださり、どうか手に取って、参加してくださいとお話しました。このように、当日は約250人の方が立ち寄っていただきました。

緑豊かできれいな湧水もあり、ホタルが飛び八千代の自然を後世に残したいものです。

「ほたるの里」では市民と行政と企業の三者協働で力を出し合い取り組んでいます。ぜひ、皆さんの力も少しずつお貸しください。（文責 武田）



平成25年度やちよ里山シンポジウム開催（平成25年度里なび研修会 in 千葉県八千代市）

環境省自然環境局と八千代市が主催で、平成25年11月2日（土）やちよ里山シンポジウムを開催しました。秋葉市長はじめ98人の参加者がありました。

主催の環境省とは、昨年、里山生き物調査のスキルアップの研修会に、里なび事務局長の竹田純一氏を講師にお願いした経緯があり、今回共同開催できました。

テーマは「光害対策と都市近郊の谷津・里山の生きものネットワークづくり」です。

午前は、島田谷津の秋の自然観察会を行いました。参加者は総勢30人でした。講師を森繁氏にお願いし、矢島氏が昆虫などに対応していただきました。2時間というタイトな時間でしたが、紅葉や木の実、昆虫など秋を体感できました。

午後は、シンポジウム開催です。基調講演は、ぐんま昆虫の森名誉園長 矢島稔氏の「皇居にホタルを定着させた、生態系復元に関する研究」でした。環境が守れている皇居でも、ゲンジボタルが定着するのに40年かかったそうです。事例報告は、ヤマトミクリ

の里づくり協議会桑波田から、生き物調査から里山保全活動をスタートしていること、四街道自然同好会の小沢氏から、四街道市内でのホタルの調



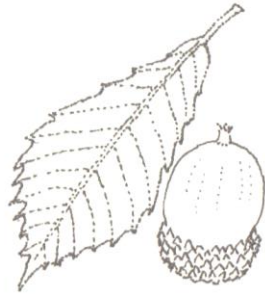
（講師：矢島 稔 氏）

査と保全活動、さらに光害の対応、船橋芝山高校教諭 檀村氏から芝山湿地のピオトープづくりと生物の保全、生徒との取り組み等についてでした。パネルディスカッションでは、ホタルの視点で「光害」についてパネリストや会場から熱く語り合う場となりました。

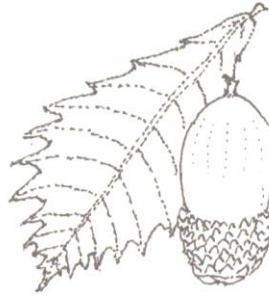
コーディネーターの竹田氏は、島田谷津を例にした場合、斜面林側の田んぼにホタルが住めるゾーンを一部作ると、生息の可能性ができ、さらに生息環境が広がるなどの具体的なアドバイスもいただきました。佐倉市、富里市、市川市など県内外からの参加者もあり、今後のネットワークに活かしたいと思います。

（文責 桑波田）

●○ ほたるの里のどんぐり ○●



コナラ
実1年型 1.6 ~ 2.2 cm



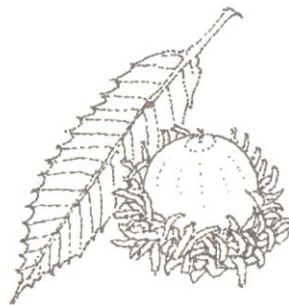
ミズナラ
実1年型 2.0 ~ 3.0 cm



スダジイ
実2年型 1.2 ~ 2.1 cm

ドングリココロ
ほたるの里に
ドングリという名の

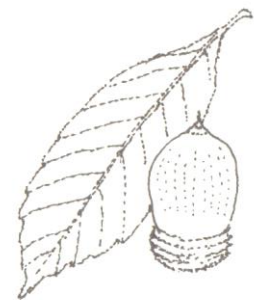
木はないけれど
コナラ・ミズナラ・スダジイ
クヌギ・シラカシ・アラカシ
たくさんはえて
みんなドングリになる木だよ
やがて大きな木になって
ドングリ山に
なるのかなあ



クヌギ
実2年型 2.0 ~ 2.3 cm



シラカシ
実1年型 1.5 ~ 1.9 cm



アラカシ
実1年型 1.5 ~ 2.0 cm

※ドングリになるまで1年かかるものと2年かかるものがあるよ

(絵・文 もり)

「四街道自然同好会」活動紹介

平成元年4月1日創設。現在の会員数は281世帯。「自然観察からはじまる自然保護、未来にわたり自然の恵みを楽しむために自然に親しみ、自然を愛し、自然を守る」を会の目的に掲げて活動。会のモットーは「私たち みんなの思いをこめて豊かな自然を子供たちの未来に！」としています。

当会は自然観察会を年間31回、学校などの支援授業を40回、野生動植物調査と自然環境保全活動を20回、この3つを主体に運営しています。

自然観察会には、毎回多くの方が参加、学校支援授業は平成10年から、延べ40,000人の児童に自然の素晴らしさ、命の大切さなどを伝えています。また、平成4年からホタル生息地の保全活動、平成6年からはホタル生息調査を実施、今年度は市内9ヶ所でヘイケボタルを確認、約50人体制で調査を行い、以来



四街道自然同好会会長 小沢 武
20年間継続してきています。ホタル好きの会員の中には、60日連続して生息数を記録する人、ヘリコプターによる農薬散布の影響を調査する人、ホタルについての事前授業を行う人、乱獲をパトロールする人もいます。

5月と11月には、市内4ヶ所でホタルの里の環境保全を実施、延べ120人程が参加しました。また夏に開催した2回の観賞会には15の市町村から多くの方の参加がありました。

その他、野生動植物調査、行政と連携した公園の樹木の名札付け、市内全域のゴミ拾い、公共施設の草刈り作業なども行っています。

四街道市には自然を愛する団体が多いことはとてもうれしいことです。その中心的団体として今後も活動して行きたいと考えています。

四街道自然同好会 <http://www.y-sizen.com/>

『第7回ほたるの里作品展』報告

平成25年10月～11月に、ほたるの里作品展を開催しました。出展数は写真と絵画合わせて16点にのぼり、市内2カ所、勝田台市民文化プラザとイトーヨーカドー八千代店を巡回しました。写真の部ではカエルやチョウ、絵画の部ではホタルやザリガニをテーマにしたものが多く、参加者からのほたるの里への想いを感じる、作品展となりました。開催期間中に、出展作品の人気投票を実施したところ、1位に「ニホンアマガエル」(写真の部)、2位に「espoir (希望) の灯<青>」(絵画の部)が選ばれました。作品展に応募して下さった皆様、アンケートにご協力くださった皆様、ありがとうございました。

(文責 事務局)

特定外来生物ナガエツルノゲイトウの

分布調査に参加して

平成25年10月8日(火)に、八千代市が実施した桑納川・新川周辺での特定外来生物ナガエツルノゲイトウの分布調査には、近隣の市民、行政機関、関係研究機関、水資源機構、環境団体、農業関係者など多くの主体が参加して行われました。

私たちのグループが担当した桑納川の桑納橋から桑橋の兩岸では、岸から約1～2mの幅でほぼ連続的にナガエツルノゲイトウが見られました。特に、桑納川が新川に合流する富士美橋付近では、ナガエツルノゲイトウが繁茂し、兩岸から川の中央近くまで覆い尽くすような状況には驚かされました。

ナガエツルノゲイトウは、近年、印旛沼及びその流域に分布を広げ、在来の水生植物の生育に影響を与える恐れがあるばかりでなく、農地(水田・畑)への侵入による農作業への障害や、河川・水路の流水阻害、また、印旛沼の洪水時における水位調整を行う排水ポンプの運転に支障をきたす恐れがあります。

ナガエツルノゲイトウの駆除と同時にこれ以上の侵入を防ぐには、今後も、それぞれの主体が情報の共有や連携を図るとともに、さらに多くの人に関心を持ってもらい協力体制を広げていく必要性を感じました。



(文責 関)

ほたるの里生き物調査報告会

ほたるの里は15年たちました。平成25年度、ほたるの里の生き物をTOTOの社員とホタルメイトで調べました。ホタルについての講演後、里の生き物調査報告、ホタルが住める環境づくりについての意見交換会を行います。

今後、ホタルが自生する環境づくりのヒントを見つけます。

日時：平成26年3月1日(土) 9:30～12:00

会場：やちよ農業交流センター 第1・2研修室

定員：50人

対象：TOTO社員 ホタルメイト ホタル保全団体

申し込み：2月25日(火)までに電話で事務局へ

(環境政策室 047-483-1151)

第17回ほたるの里総会

○日 時：平成26年4月5日(土)

10時～12時30分

○場 所：八千代市立郷土博物館学習室

平成25年度の活動及び会計報告、平成26年度の活動予定について話し合います。

※総会の後に希望者で、「樹木を知ろう」の観察会を行います。参加を希望される方は参加費50円(保険代)と帽子、水筒等をお持ち下さい。



○● ホタルメイト募集 ●○

●平成25年度年会費(4月～翌年3月)

個人 500円/市民団体・事業所 2,000円

●受け付け

市役所2階環境保全課の窓口やイベント、里の環境整備時。また郵便局からの郵便振替でも納入可。

※郵便局でお振込の場合

払込先：八千代市ほたるの里づくり実行委員会

口座番号：00150-7-670156

振替手数料：ATM 80円、窓口 120円

【ほたるの里 連絡先】

八千代市ほたるの里づくり実行委員会事務局

〒276-8501 八千代市大和田新田312-5

八千代市役所環境保全課 内

Tel: 047-483-1151 E-mail: kankyou1@city.yachiyo.chiba.jp

HP: <http://www.city.yachiyo.chiba.jp/123508/page000009.html>

【編集】 広報部会 事務局